

Good Choice

グッドチョイス

まちの話題をお寄せください。

総務課 広報広聴係 ☎75-2280 / FAX75-2110



◀一回り大きくなって帰ってきますと抱負を語った松瀬さん(右)と森田さん(左)

▶金丸美智夫代表取締役から招待状の贈呈の様子



一回り大きくなって帰ってきます!!

ボブ・ホークススカラシップ中学生海外派遣研修招待状贈呈式

『(株)オニザキコーポレーション』と、『ボブ・ホークススカラシップ財団』によるオーストラリアへのホームステイが決まった松瀬勝朗さん(東部校9年)と、森田有紀さん(中央校8年)への招待状贈呈式が7月17日、市役所で行われました。

海外研修は、日本と異なる文化や自然と出会い、広い視野を身につけてもらおうと開催されているもので、今年で7回目を迎えました。

松瀬さんは「文化、自然、異なる価値観に触れて、英語を上達させたい」、森田さんは「自分の使える英語で友達をたくさん作りたいです」と決意を述べ、7月28日から8月25日まで約4週間のオーストラリアでの生活に目を輝かせていました。

いのちの大切さを歌声にのせて

東部校「いのちをつなぐコンサート」

7月16日、いのちの大切さや思いやりの心を育むことを目的に東部校で取り組んでいる、生と死を考える授業の一環として、歌手の沢知恵さんによる『いのち、そして平和』をテーマにしたコンサートが行われました。

沢知恵さんは幼い頃から日本、韓国、アメリカで暮らし、東京芸術大学在学中に歌手デビュー。ハンセン病療養所や少年院をはじめ、東日本大震災の被災地でのコンサートを通じて、生きることや死ぬこと、歌を通じていのちの尊さを伝える活動を続けられています。

コンサートでは、『アメイジンググレイス』や『故郷』、沢さんのオリジナル曲など10曲を披露。生徒会長の上戸慎也さんは「たくさんの勇氣、メッセージをもらいました。『生きることと死ぬことはつながっている』という言葉が印象に残りました」と語りました。

東部校では、年間を通して「いのち」について学んでいます。



▲アンコールに応じて、『手のひらを太陽に』を演奏する沢知恵さん

第23回 諸田賢順を偲ぶ会

7/13

多久市文化連盟(会長 吉浦啓一郎)主催の諸田賢順を偲ぶ会が、多久町専称寺にて行われました。

会は、川副春海住職による読経に始まり、楓の会、尺八研究会会員による艶やかな琴・尺八の演奏、『諸田賢順の遺徳を偲ぶ』、『専称寺の核割れ梅に題す』などの献吟で賢順先生の功績に思いをはせながら、遺徳を偲びました。

閉会のあいさつでは、文連副会長の最所和泉さんが「先生のご貢献に心からの敬意を表し、多久にとどまらず、県外にも遺訓を伝えたい」と今後の抱負を語りました。



交通安全マナーアップキャンペーン多久

7/11

『守ろう交通ルール 高めよう交通マナー』を運動スローガンに実施された『夏の交通安全県民運動』に合わせ、西多久町で交通安全マナーアップキャンペーンを行いました。小城警察署をはじめ、多久地区交通安全協会、交通安全母の会、交通安全指導員、さくらんぼ保育園児、日本公衆電話会等57人が参加。

保育園児たちは、「安全運転お願いします」と元気な声で交通安全啓発チラシ等をドライバーに渡し、安全運転を呼びかけました。

